

昭和館巡回特別企画展 「戦中・戦後のくらしー高知展」に9,145人が来場

東京・九段にある昭和館が毎年全国の都市で実施している巡回特別企画展「戦中・戦後のくらしー高知展」が、1月11日から26日まで14日間の会期で、高知市の「かるぽーと」で開催された。戦中・戦後の国民生活上の労苦を伝える展示では、開催地の高知県に関連する実物資料、写真、手記、映像等が多数展示され、幅広い年代の来場者が訪れた。



会場前でのテープカット

東京都の九段下にある「昭和館」では、毎年二か所ずつ巡回特別企画展を開催している。平成13年から開始し32回目となった今回は、約3000点の展示資料のうち、高知県に關係する資料が約170点紹介された。会場には、会期中9,145人の来場者が訪れた。期間中には、県内に住む遺族の方々をはじめ、小中学校生も団体見学に訪れ、展示を興味深く見る姿が多く見られた。

展示品には、戦地から高知県に住む家族に送られた軍事郵便や家族にあてた遺書、昭和20年7月の高知大空襲被害写真や手記などのほか、昭和22年に



昭和館展示会場風景

撮影された小学校建設の様子など、戦中・戦後の高知県にゆかりのある資料、写真が紹介された。また、県内のご遺族の方々が参加された遺骨収集や慰霊巡拝などの活動も紹介された。昨年より収録を行っていた高知県の戦中から戦後にかけての労苦を語る証言映像も会場で同時上映され、涙ぐむ来場者もあった。

香南・香美 戦没者遺族会連合会 研修報告

1月11日（木）参加者69名がバス2台で、高知市文化プラザかるぽーとで開催されている「戦中・戦後のくらしー高知展」のオープニングセレモニーに出席



三館展示会場風景

での展示を行った。

本展示では、県立歴史民俗資料館及び館内自治体、資料館等が所蔵する実物資料も併せて紹介したことにより、地元で多くの注目を浴び、NHKや高知放送など様々な地元メディアで紹介された。

し、会場内を見学しました。会場内には、高知の戦前・戦後の様子を写した写真が説明とともに展示されており、懐かし目に浮かぶようでした。

夫や息子が戦争に召集され、家族との別離や苦悩の日々、無事を祈る当時の様々な光景が胸に迫りました。また、遺骨収集時の状況を細かく書き記された資料や写真など、現地の皆様のご協力により今日があるのだと感じ、感動と感謝の気持ちでいっぱいになりました。見学の中、遺族の皆さんはすぐには声が出ず、こうべを垂れ感激した様子でした。

昼食後には、高知城歴史博物館で土佐の特産品で作られた品々、各市町村の文化、モザイクの壁画、戌年の福を呼ぶめでたいものづくりや土佐山内家に伝わる刀などの多くの展示遺物を見学しました。学芸員より高知城を見るのに一番のスポットなど、高知の様々なことを教えていただき、楽しく研修することができました。

土佐山田町片地遺族会
女性部長 鍵山玲子